

まちづくり交付金 事後評価シート  
中心市街地再生計画地区

平成20年12月

岡山県津山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岡山県	市町村名	津山市	地区名	中心市街地再生計画地区			面積	302ha
交付期間	平成16年度～平成20年度	事後評価実施時期	平成20年4月～平成21年3月	交付対象事業費	4,469百万円	国費率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業	提案事業	道路(地区集散道路)、地域生活基盤施設(地域交流広場、ごんご広場)、既存建造物活用事業(地域防災施設、地域交流センター)						
			地域創造支援事業(災害時緊急車両拠点整備事業)、まちづくり活動推進事業(NPOまちづくり活動推進事業、城西まるごとNPO活動推進事業)						
			事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
当初計画から削除した事業	基幹事業								
	提案事業								
新たに追加した事業	基幹事業	道路(総社川崎線)	中心市街地に整備した地域防災施設及び災害時緊急車両拠点整備事業と津山警察署、津山消防署の連携の強化を図ると共に、これらの施設の効果をより広域なものとするため、中心市街地の混雑を緩和する都市計画道路・総社川崎線の整備を推進する。また、地域交流センター等中心市街地部の主要施設の利用促進や観光資源の活性化なども期待できる。			この事業の効果を定量的に把握するため、「津山警察署・津山消防署から地域防災施設までの到達時間(渋滞発生ピーク時)を指標として設定した。			
	提案事業	地域創造支援事業(津山洋学資料館建設事業)	旧洋学資料館を洋学者の眞作阮甫旧宅や武家屋敷近隣に新築移転することで、歴史文化ゾーンの強化及び観光振興を図る。			指標2:観光客数の増加を促進するものと考えられる。			
交付期間の変更	当初	平成16年度～平成20年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
	変更	平成16年度～平成20年度							

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	来街者数	人/3日	38,116	14	40,000	20		18,467	×	あり なし	中心市街地の人口減少や郊外の大型商業施設進出等の影響が大きい。
指標2	観光客数	人/年	40,643	15	43,000	20	30,341	51,940		あり なし	数値目標の達成は見込める。また、周辺観光施設への波及効果も期待できる。	平成22年5月
指標3	広域文化交流拠点施設利用者数	人/年度	508,301	15	534,000	20	620,123	617,444		あり なし	既存文化施設の利用が促進された。	平成22年5月
指標4	災害時避難施設の屋内収容可能人数	人	510	15	1,500	20	1,533	1,533		あり なし	密集市街地における防災機能の強化が図れた。	
指標5	津山警察署・津山消防署から中心市街地までの到達時間	分	18	18	13	20		10		あり なし	道路の供用により、中心部の混雑緩和及び中心部へのアクセス改善が期待できる。	平成21年5月

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度 <sup>1)</sup>	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	アルネ津山の駐車場利用台数を集計(資料/津山地域振興開発(株))	台/年度	645,593	15			675,721	703,374			地域交流センター、商業基盤整備等によりアルネ津山の駐車場利用台数が増加した
その他の数値指標2												

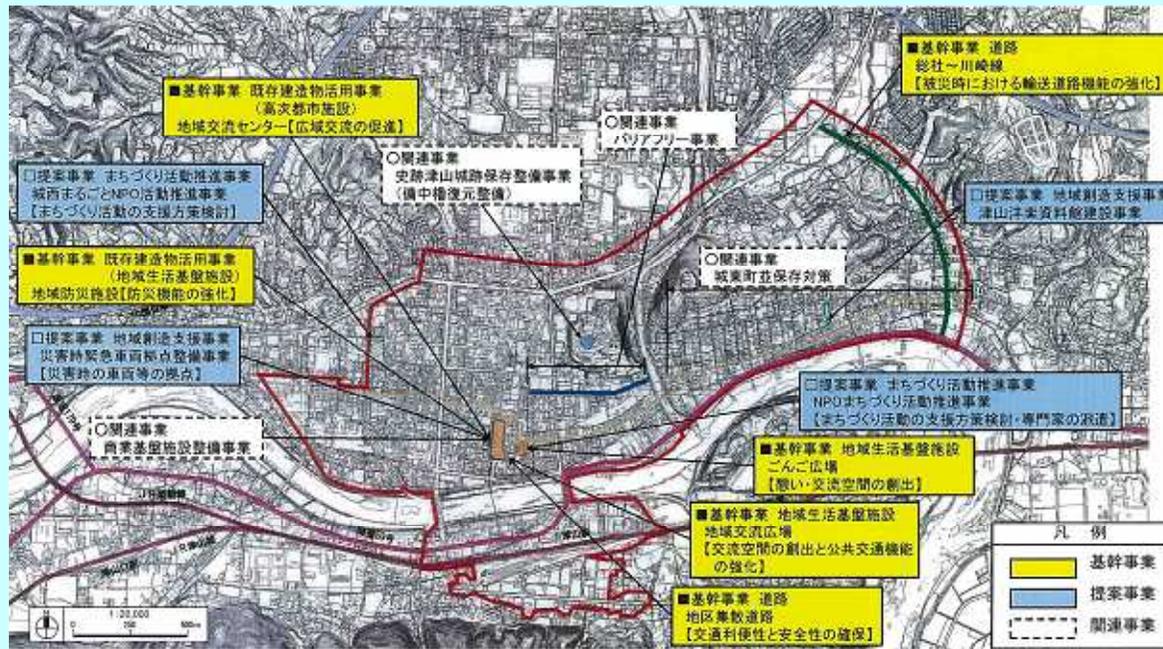
4)定性的な効果発現状況  
 ・地域交流センターの完成により既存文化施設の利用促進が図られ、教育・文化・学習等多様で高質な都市サービスを受けやすい環境となっている。また、地域防災施設や災害時緊急車両拠点等の整備により、安心・安全な都市環境の構築が進んでいる。これにより、質の高い都市環境づくりが進み、中心市街地としての求心力が向上している。  
 ・津山洋学資料館の整備を進めている城東地区や歴史的建築物の保存活動を推進している城西地区等において、市民のまちづくりへの意識が高まっている。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
	モニタリング	・モニタリング原案を市HP上等で公表し、住民及び有識者から意見を聴取した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた		・事後評価においても積極的に公表し、住民・有識者等からより多くの意見を聴取する。	
		・モニタリング結果及び住民、有識者の意見等を踏まえ、都市再生整備計画の変更を行った。	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
住民参加プロセス	・「再開発事業ありかた委員会」(市民、学識経験者等で構成、H18.8.30から15回開催)において、まちづくり交付金事業の検証を行っている。	都市再生整備計画に記載し、実施できた		・今後も委員会におけるまちづくり交付金事業の検証結果を公表する。		
	・モニタリング原案を市HP上等で公表し、住民及び有識者から意見を聴取した。	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				
持続的なまちづくり体制の構築	・空き店舗等を活用したまちづくり活動の拠点整備や活動支援	都市再生整備計画に記載し、実施できた		まちづくり本舗の維持・継続に注力し、各団体、地元商店街、自治会、関係機関、行政の連携を強化する必要がある。		
	・歴史文化遺産を活用したまちづくりを推進する市民団体との連携	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				

## 様式2-2 地区の概要

中心市街地再生計画地区(岡山県津山市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	評価	目標値	評価	実績値	評価
大目標: 城下町としての魅力アップと交流拠点など都市機能の強化による中心市街地の再生	来街者数	単位:人/3日	38,116	H14	40,000	H20	18,467	H20
目標1: 総合的な都市機能の強化により、中心市街地の活性化を図る	観光客数	単位:人/年	40,643	H15	43,000	H20	51,940	H19
目標2: 城下町としての特色である歴史遺産を活用したまちづくりを推進し、観光振興を図る	広域文化交流拠点施設利用者数	単位:人/年度	508,301	H15	534,000	H20	617,444	H19
目標3: 地域交流拠点機能の強化により、広域交流の拡大と促進を図る	災害時避難施設の屋内収容可能人数	単位:人	510	H15	1,500	H20	1,533	H20
目標4: 防災機能の強化及び街路整備により、中心市街地における安全性の向上を図る	津山警察署・津山消防署から中心市街地までの到達時間	単位:分	18	H18	13	H20	10	H20



**まちの課題の変化**

- 中心市街地の活性化及び広域交流の拡大と促進については、核施設であるアルネ津山への来訪者が増加し、地域交流センターや既存文化施設の利用者も増加した。しかし、周辺商店街の通行者数は減少に歯止めがかからない状況である。
- 津山洋学資料館は、城東地区における新たな観光拠点として観光客の増加が期待される。周辺の既存観光施設への波及や歴史・文化遺産の保存活用の継続等が今後の課題である。
- 地域防災施設や総社川崎線等の整備により、あんしん・安全なまちづくりが進んでいる。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

- 地域交流センターや広場等主たる基盤(ハード)がほぼ達成され効果が現われていることから、今後は既存文化施設等を含めた活用と運用(ソフト)が課題である。
- 本事業により増加傾向にあるアルネ津山利用者をまちなかへ誘導することで中心市街地のにぎわいの再生を図る。(中心市街地の魅力向上のための催しやイベント、まちなかへ誘導するためのPRや情報サービスの充実、公共交通サービスの見直し、空き店舗対策の推進 等)
- 観光客が歴史・文化遺産を周遊できる環境整備を推進するとともに、地域住民との協働により歴史・文化遺産の保存活用を継続する。

# まちづくり交付金 事後評価シート

## (添付書類)

### (1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

### (2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

### (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

### (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

### (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

### (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

### (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標					
B. 目標を定量化する指標				「津山警察署・津山消防署から中心市街地までの到達時間(渋滞発生ピーク時)」を指標に追加した。(H18年8月第2回変更)	都市再生整備計画に道路事業「総社川崎線」を追加したことから、この事業の効果を定量化するための指標として設定した。
C. 目標値					
D. その他( )					

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	総社川崎線	-	なし	680	都市計画道路の整備	中心市街地に整備した施設等の効果を拡大するため、事業を追加	この事業の効果を定量的に把握するため、「津山警察署・津山消防署から地域防災施設までの到達時間(渋滞発生ピーク時)を指標として設定した。		
道路	地区集散道路	370	中心市街地の地区集散道路の整備	2	中心市街地の地区集散道路の調査・設計	必要性の再検討及び市民合意の再確認が必要となったため、事業実施を延期。交付期間内に測量調査のみ実施した。	影響なし		
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	地域交流広場	750	地区集散道路に隣接する交流広場の整備	3	地区集散道路に隣接する交流広場の整備	必要性の再検討及び市民合意の再確認が必要となったため、事業実施を延期。交付期間内に測量調査のみ実施した。	影響なし		
地域生活基盤施設	ごんご広場	45	憩い・交流空間の整備	37	憩い・交流空間の整備	コスト縮減による事業費減	影響なし		
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業(地域生活基盤施設)	地域防災施設	1,533	既存建造物を活用した地域防災拠点の整備	1,533	既存建造物を活用した地域防災拠点の整備	なし	-		
(高次都市施設)	地域交流センター	637	既存建造物を活用した地域交流センターの整備	645	既存建造物を活用した地域交流センターの整備	なし	-		
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	災害時緊急車両拠点整備事業	472	既存建造物を活用した緊急車両拠点の整備	472	既存建造物を活用した緊急車両拠点の整備	なし	-		
	津山洋学資料館建設事業	-	なし	996	洋学資料館の建設	洋学者の箕作阮甫旧宅や武家屋敷近隣に津山洋学資料館を建設することで、歴史文化ゾーンの強化及び観光振興を図る。	影響なし		
事業活用調査	事業効果分析	-	なし	5	まちづくり交付金の事後評価	事後評価に係る調査費用を追加。	-		
まちづくり 活動推進事業	NPOまちづくり活動推進事業	46	空き店舗を活用した活動拠点整備やコーディネータの派遣等	45	空き店舗を活用した活動拠点整備やコーディネータの派遣等	なし	-		
	城西まるごとNPO活動推進事業	51	歴史的遺産を活用したまちづくり活動	51	歴史的遺産を活用したまちづくり活動	なし	-		

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
バリアフリー事業		中心市街地	50	160	H16～H20	H16～H20	H20完成予定	
史跡津山城跡保存整備事業		中心市街地	320	320	H14～H17	H14～H17	H17完成	
商業基盤施設整備事業		中心市街地	2,222	2,222	H17～H17	H17～H17	H17完成	
城東町並保存対策事業		中心市街地	-	未定	-	S63～継続	継続中	

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度 2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	確定見込み	達成値	×	あり	なし	
指標1	来街者数	人/3日	主な商店街5箇所について、金～日曜日の3日間の歩行者通行者数を調査(調査実施主体/津山市 3年に1回実施している通行量調査)	42,910	11	38,116	14	40,000	20	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	18,467	事後評価	×		
指標2	観光客数	人/年	主な観光施設4施設の入館者数を集計(資料/津山市 各施設の実数)	39,165	13	40,643	15	43,000	20	モニタリング		30,341	モニタリング	×		
										事後評価	確定見込み	51,940	事後評価			
指標3	広域文化交流拠点施設利用者数	人/年度	アルネ津山の文化交流施設の利用者数を集計(資料/津山市 各施設の実数)	477,757	11	508,301	15	534,000	20	モニタリング		620,123	モニタリング			
										事後評価	確定見込み	617,444	事後評価			
指標4	災害時避難施設の屋内収容可能人数	人	高耐震避難施設の屋内収容可能人数を集計(資料/津山市)	510	11	510	15	1,500	20	モニタリング		1,533	モニタリング			
										事後評価	確定見込み	1,533	事後評価			
指標5	津山警察署・津山消防署から中心市街地までの到達時間	分	混雑時における自動車走行調査を実施し、到達時間を計測(調査実施主体/津山市)			18	18	13	20	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	10	事後評価			

指標	目標達成度 × の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	中心市街地の人口減少や郊外の大型商業施設進出等の影響が大きく、目標達成は困難である。	指標に貢献する事業が完成していることから、確定値とする。
指標2	津山洋学資料館の完成により、数値目標の達成は見込める。また、周辺観光施設への波及効果も期待できる。	
指標3	地域交流センター完成により、既存文化私設(図書館、文化展示ホール、音楽文化ホール等)利用が促進された。 また、地域交流センターは、年間約80千人の利用者が訪れている。	
指標4	防災施設の整備により、地区内の高耐震屋内避難施設収容可能人数が新たに約1,000人増加した。地区内居住人口(約6,000人)に対する収容可能割合は、約8.5%から約25.6%と3倍となった。	指標に貢献する事業が完成していることから、確定値とする。
指標5	道路の供用により、中心部の混雑緩和及び中心部へのアクセス改善が期待できる。	日常の平均的な到達時間を計測するため、計測日を2日間・調査車両(運転手)を2台・計測回数を2回/日とする。

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) <sup>1</sup> 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
				基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	アルネ津山(中心市街地核施設)の駐車場利用台数	台/年度	アルネ津山の駐車場利用台数を集計(資料/津山地域振興開発(株))	524,213	11	645,593	15	モニタリング		675,721	アルネ津山の駐車場利用者数増加は、指標1と同様に「中心市街地の活性化」という目標に合致している。	アルネ津山は、中心市街地の中心部に位置する核施設であり、大規模な駐車場を備えている(528台)。この駐車場利用者の増加がみられれば、中心市街地への来訪者の増加(中心市街地の活性化)とみなすことができる。
								事後評価	確定			
その他の数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定			

<sup>1</sup> 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・地域交流センターの完成により既存文化施設の利用促進が図られ、教育・文化・学習等多様で高質な都市サービスを楽しむ環境となっている。また、地域防災施設や災害時緊急車両拠点等の整備により、安心・安全な都市環境の構築が進んでいる。これらにより、質の高い都市環境づくりが進み、中心市街地としての求心力が向上している。

・津山洋学資料館の整備を進めている城東地区や歴史的建築物の保存活動を推進している城西地区等において、市民のまちづくりへの意識が高まっている。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
【都市再生整備計画に記載】 交付期間中における事業実施及び目標達成過程の数値確認については、モニタリングを実施し、円滑な事業推進を図る。	予定どおり実施した		・モニタリング原案を市HP上等で公表し、住民及び有識者から意見を聴取した。 ・モニタリング結果及び住民、有識者の意見等を踏まえ、都市再生整備計画の変更を行った。	・事後評価においても積極的に公表し、住民・有識者等からより多くの意見を聴取する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

### 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
「再開発事業ありかた委員会」(市民、学識経験者等で構成)におけるまちづくり交付金事業の検証	予定どおり実施した		・「再開発事業ありかた委員会」(市民、学識経験者等で構成、H18.8.30から15回開催)において、まちづくり交付金事業の検証を行っている。 ・上記委員会の開催状況及び議事録、委員会見解を市ホームページや市広報で随時市民に公表している。	・今後も委員会におけるまちづくり交付金事業の検証結果を公表する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
【都市再生整備計画に記載】 実施状況や数値目標の達成状況等についてモニタリングを実施し、結果を市民に公表	予定どおり実施した		・モニタリング原案を市HP上等で公表し、住民及び有識者から意見を聴取した。	・事後評価においても積極的に公表し、住民・有識者等からより多くの意見を聴取する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

### 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名・組織の概要	
【都市再生整備計画に記載】 中心部商店街においてまちづくり活動を行っている民間活動団体の持続的な活動の推進	予定どおり実施した		津山まちづくり本舗(市中心部の活性化を考える市民グループ、“まちなか案内図”や“まちなかトイレ”を設置)	まちづくり本舗の維持・継続に注力し、各団体、地元商店街、自治会、関係機関、行政の連携を強化する必要がある。
	予定はなかったが実施した	空き店舗等を活用したまちづくり活動の拠点整備や活動支援		
	予定したが実施できなかった(理由)			
【都市再生整備計画に記載】歴史文化遺産を活用したまちづくりを推進する市民団体との連携やイベント開催	予定どおり実施した		城西まるごと博物館フェア実行委員会、中島病院旧本館保存活用プラン協議会	各団体、地元商店街、自治会、関係機関、行政の連携を強化する必要がある。
	予定はなかったが実施した	歴史文化遺産を活用したまちづくりを推進する市民団体との連携		
	予定したが実施できなかった(理由)			

### (3) 効果発現要因の整理

#### 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり交付金事後評価検討会 【庁内の横断的な組織】	津山市 総合政策室、産業支援課、観光振興課、文化振興課、都市計画課、建築住宅課の主に課長級職員	第1回：平成20年9月19日(金) 第2回：平成20年9月29日(月)	津山市都市計画課(まちづくり交付金主管課)

#### 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		指標4		指標5	
指標名		観光客数		広域文化交流拠点施設利用者数		災害時避難施設の屋内収容可能人数		津山警察署・津山消防署から中心市街地までの到達時間	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路 総社川崎線		津山洋学資料館建設事業の完成が平成21年度の予定であるため、現時点では効果が発現していない。完成により約2万人/年の利用者数を想定しており、数値目標の達成は見込める。また、周辺観光施設への波及効果も期待できる。	H18年4月の地域交流センター完成により、既存建造物(アルネ津山)内の図書館、文化展示ホール、音楽文化ホール等既存施設の利用者数が増加した。また、地域交流センターは、年間約80千人の利用者が訪れている。	既存建造物(アルネ)の屋内駐車場を活用した地域防災施設の整備により、地区内の屋内避難施設収容可能人数が新たに約1,000人増加した。地区内居住人口(約6,000人)に対する収容可能割合は、約8.5%から約25.6%と3倍となった。		総社川崎線を整備することで中心市街地の渋滞緩和が図られ、緊急車両の中心部や災害拠点施設への到達時間の短縮が図られる。		
	道路 地区集散道路								
	地域生活基盤施設 地域交流広場								
	地域生活基盤施設 ごんご広場								
	既存建造物活用事業 地域防災施設								
既存建造物活用事業 地域交流センター									
提案事業	災害時緊急車両拠点整備事業	-							
	津山洋学資料館建設事業								
	NPOまちづくり活動推進事業								
	城西まるごとNPO活動推進事業								
関連事業	バリアフリー事業								
	史跡津山城跡保存整備事業								
	商業基盤施設整備事業								
	城東町並保存対策事業								

#### 指標改善への貢献度

- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	<p>・城東町並保存対策事業など歴史的建造物と一体となった町並づくりの推進。</p> <p>・観光施設へのアクセス、回遊性・利便性の向上を図る施策の実施。(駐車場、バリアフリー化、休憩施設、案内施設等)</p> <p>・中心市街地に存在する既存観光資源の活性化施策の再検討。</p>	<p>増加した利用者に街中を回遊してもらえるようなまちづくりを計画するとともに、広域からのアクセス向上を図る施策を推進する。</p>	<p>あんしん・安全なまちづくりを今後も推進するとともに、地域住民の防災意識の向上を図る。</p>	<p>総社川崎線と連携し、中心市街地の混雑緩和や利便性の向上を図る道路の整備・改良。また、中心市街地における歩行者の安全性確保や公共交通の利便性向上などを図る「街なか交通施策」を検討・推進する。</p>
-------	---	--	---	---

指標の種別		その他指標							
指標名		アルネ津山の駐車場利用台数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路 総社川崎線		地域交流センター、商業基盤整備等により、アルネ津山の駐車場利用台数が増加した。						
	道路 地区集散道路								
	地域生活基盤施設 地域交流広場								
	地域生活基盤施設 ごんご広場								
	既存建造物活用事業 地域防災施設	-							
既存建造物活用事業 地域交流センター	-								
提案事業	災害時緊急車両拠点整備事業	-							
	津山洋学資料館建設事業	-							
	NPOまちづくり活動推進事業								
	城西まるごとNPO活動推進事業	-							
関連事業	バリアフリー事業								
	史跡津山城跡保存整備事業	-							
	商業基盤施設整備事業								
	城東町並保存対策事業	-							

指標改善への貢献度

- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ◇：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	アルネ津山利用者を周辺商店街に回遊させる方策。商店街、地域と行政の連携による商店街の総合的な魅力づくり。				
-------	--	--	--	--	--

添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1											
指標名		来街者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路 総社川崎線	×	中心市街地へのアクセス、回遊性向上を図る事業の遅れや中心市街地の人口減少、商店街の低迷、郊外部大規模店舗の出店・増床等により商店街の通行者数が大幅に減少した。ただし、既存建造物を活用した地域交流センターの整備は、拠点施設の利用者数増加に大きく貢献した。	および									
	道路 地区集散道路	×											
	地域生活基盤施設 地域交流広場	×											
	地域生活基盤施設 ごんご広場												
	既存建造物活用事業 地域防災施設	-											
	既存建造物活用事業 地域交流センター												
提案事業	災害時緊急車両拠点整備事業	-											
	津山洋学資料館建設事業	×											
	NPOまちづくり活動推進事業												
	城西まるごとNPO活動推進事業												
関連事業	バリアフリー事業												
	史跡津山城跡保存整備事業	×											
	商業基盤施設整備事業	×											
	城東町並保存対策事業	×											

目標未達成への影響度  
 × × : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的原因となった。  
 × : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的原因となった。  
 : 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。  
 - : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

要因の分類  
 分類 : 内的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類 : 外的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類 : 外的な要因で、予見が不可能な要因。  
 分類 : 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地へのアクセス、回遊性向上を図る施策の継続、推進。(アルネ津山と商店街の回遊性向上)</li> <li>・商店街、地域と行政の連携による総合的な魅力づくり。(低未利用地や空き店舗の活用、魅力ある商業空間の創出)</li> <li>・まちなか居住の促進</li> </ul>				
------------------	--	--	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり交付金事後評価検討会 【庁内の横断的な組織】	津山市 総合政策室、産業支援課、観光振興課、文化振興課、都市計画課、建築住宅課の主に課長級職員	第1回：平成20年9月29日(月)	津山市都市計画課(まちづくり交付金主管課)

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
中心市街地の活性化	・地域交流センターやごんご広場等交流拠点の整備により、中心市街地の核施設であるアルネ津山への来訪者が増加した。 ・まちづくり活動団体が設置した”まちなか案内図”や”まちなかトイレ”等により、買い物客や観光客の利便性が向上した。	・アルネ津山への来訪者が増加したものの、周辺商店街の通行者数の減少に歯止めがかからない状況である。 ・商店街の低迷や空き店舗の増加、中心市街地の人口減少、高齢化が現在も進んでいる。	
城下町としての特色である歴史遺産を活用したまちづくり	・津山洋学資料館は、城東地区における新たな観光拠点として観光客の増加が期待される。	・津山洋学資料館周辺の既存観光施設への波及 ・歴史遺産の保全・活用	
広域交流の拡大と促進	・地域交流センターは、年間約8万人に利用者が訪れている。また、既存建造物(アルネ津山)内の市立図書館、文化展示ホール、音楽文化ホール等既存文化施設の利用者数が増加した。	・周辺住民や商店街等への交流の拡大 ・広域からのアクセス向上	
中心市街地の安全性向上 (密集市街地における防災機能の強化)	・地域防災施設及び災害時緊急車両拠点の整備により、密集市街地における防災機能が強化された。 ・総社川崎線の供用により、警察署・消防署から中心市街地への到達時間が短縮された。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

添付様式5 - 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	広域交流の持続・拡大	・地域交流センターや広場等主たる基盤整備(ハード)がほぼ達成され効果が現われていることから、今後は既存文化施設等を含めた活用と運用(ソフト)が課題である。	・施設を有効活用するための催しやイベント 等
	歴史・文化資源を活かした観光振興	・津山洋学資料館を観光の拠点、歴史・文化の新たな情報発信の場として整備を行っていく。	・観光振興に関するPRの強化 ・施設を有効活用するための催しやイベント 等
	地域防災機能の強化	・地域防災施設や災害時緊急車両拠点等の役割・機能等を広く市民に普及するとともに市民の防災意識の向上を図っていく。	・広報活動、情報提供の充実 ・自主防災組織の育成

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	中心市街地のにぎわい再生	・本事業により増加傾向にあるアルネ津山利用者をまちなかへ誘導することで中心市街地のにぎわいの再生を図る。 ・中心市街地の活性化対策として、魅力ある商業空間の創出、交通サービスの向上、まちなか居住の促進等を推進する。	・中心市街地の魅力向上のための催しやイベント ・まちなかへ誘導するためのPRや情報サービスの充実 ・公共交通サービス(ごんごバス)の見直し ・空き店舗対策の推進 等
	歴史遺産の保存・活用	・観光客が歴史・文化遺産を周遊できる環境の整備を推進する。 ・歴史遺産が残る城東地区、城西地区、鶴山地区の保存活用を推進する。	・城東地区の歴史的な町並み整備(電線類地中化、カラー舗装等) ・観光客の利便性を向上するための駐車場、歩行空間、休憩施設、観光案内等の整備
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 - )を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 - )を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5 - )を再確認した。

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・事業を行った施設や地区等については残された課題はあるものの、従前の状況に比べると改善の効果が現われている。今後は、改善の効果を持続し、周辺へ波及させていくまちづくりを展開する必要がある。  
・また、本事業の実施により高揚している市民意識を今後も継続発展していくことが重要である。

添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-1、2-2に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-1、2-2から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が「又は×」の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	来街者数	人/3日	38,116	H14	40,000	H20	確定	18,467	×	あり			
							見込み			なし			
指標2	観光客数	人/年	40,643	H15	43,000	H20	確定	51,940		あり	平成22年5月	津山洋学資料館の完成後1年間の入館者数を集計する。	津山洋学資料館の完成予定：平成21年3月
							見込み			なし			
指標3	広域文化交流拠点施設利用者数	人/年度	508,301	H15	534,000	H20	確定	617,444		あり	平成22年5月	事業期間終了後1年間(平成21年度)の利用者数を集計する。	
							見込み			なし			
指標4	災害時避難施設の屋内収容可能人数	人	510	H15	1,500	H20	確定	1,533		あり			
							見込み			なし			
指標5	津山警察署・津山消防署から中心市街地までの到達時間	分	18	H18	13	H20	確定	10		あり	平成21年5月	都市計画道路「総社川崎線」が平成20年度末の供用を予定していることから、平成21年5月中旬に自動車走行調査を実施する。	
							見込み			なし			
その他の数値指標1	アルネ津山(中心市街地核施設)の駐車場利用台数	台/年度	645,593	H15			確定	703,374			平成22年5月	事業期間終了後1年間(平成21年度)の利用者数を集計する。	
その他の数値指標2							確定						
							見込み						

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		・次期計画の都市再生整備計画作成時においては、計画以前の推移や社会情勢・地域現況等を十分考慮した上で、数値目標の設定根拠を明確に整理する必要がある。
	うまくいかなかった点	・「指標1:来街者数」(=中心市街地内の主な商店街5箇所の歩行者通行者数)の数値目標は、中心市街地の人口減少や商店街の低迷状況等を踏まえると達成困難な設定であった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・「指標3:広域文化交流拠点施設利用者数」は、既存建造物を活用した地域交流センターによる増加と既存文化施設への波及効果を検証することができた。	・次期計画においては、目標や事業内容と評価指標の因果関係に十分留意する。
	うまくいかなかった点	・「指標1:来街者数」は中心市街地内の主な商店街5箇所の歩行者通行者数を用いたが、本事業内に商店街の需要を誘発する直接的な事業がなかったことや地域交流センター等の効果が十分波及しなかったこと等を考慮すると、従前の指標設定及び目標値設定の適切性を検証する必要がある。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・モニタリング結果の公表と意見聴取を行ったことで、住民意見や有識者の助言等に基づく事業の進め方の見直しが見直しができた。	・まちづくりに関する事業においては、今後も広く住民に情報を公開した上で意見や要望等を聴取する。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・交付期間が5年間と長かったためモニタリングを実施した。事業の進捗状況の確認や期間中に完了した事業の効果を検証することができた。	・モニタリングは、事業の進捗状況や効果の発現状況を確認した上で進め方を見直しできることから有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

### 添付様式6 - 参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後のまちづくり交付金の活用予定  
当該地区の東に位置する城東地区において、“城下町の風情を残す歴史文化を活かしたまちづくりの推進”を目的としたまちづくり交付金の活用を予定している。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成20年11月6日～	平成20年11月6日～11月28日	担当課への 電話、FAX、電子メール	都市計画課 (まちづくり交付金担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	・広報に市のホームページで原案を公表している旨を掲載	・津山朝日新聞の津山市広報欄：平成20年11月18日	平成20年11月6日～11月28日		
説明会・ワークショップ					
その他	・都市計画課窓口での縦覧	・縦覧期間：平成20年11月6日～11月28日	平成20年11月6日～11月28日		

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

## (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

### 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	目瀬 守男 美作大学 大学院 生活科学研究科教授 井原 徹 美作大学 生活科学部 福祉のまちづくり学科教授	第1回 平成20年12月11日	都市計画課 (まちづくり交付金担当課)	まちづくりの観点からまちづくり交付金に限定し、事業評価を行うよう、市の要綱で運用	独自に設置
その他の委員	津山商工会議所 牧野 大作 副会頭				

審議事項 1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・来街者数(商店街の歩行者数)は、数値目標が達成できなかったが、その他指標としたアルネ津山(中心市街地各施設)の駐車場利用率が9%増加していることから事業の効果が確認できるとの意見があった。 ・アルネ津山駐車場利用者のうちアルネ津山館外へ出かける人が約14%(津山アルネ駐車場利用者アンケート調査)にとどまっていることから、効果が周辺部まで波及していないとの意見があった。周辺商店街の魅力づくりや人が回遊する仕掛けなどが今後の課題であるとの意見があった。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・来街者数に貢献する事業の大半がアルネ津山(中心市街地各施設)で実施されていることから、周辺商店街の歩行者数による効果の把握は困難であるとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・津山洋学資料館が城東地区のあらたな観光拠点となることに期待するとの意見があった。 ・津山洋学資料館完成後のまちづくりとして、城東地区における電線類地中化やカラー舗装、案内板等を計画していると答弁。 ・旧出雲街道のカラー舗装については、事業実施予定区間だけでなく将来的な延伸も見据えてイメージづくり等を行っておくことが重要であるとの意見があった。
	フォローアップ	・現時点で未完成の津山洋学資料館、総社川崎線については、フォローアップを確実に実施し、市民に公表するようとの意見があった。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は、妥当であると認められた。
その他	・特になし。	